



平成26年10月14日

各 位

上場会社名 株式会社ジーンテクノサイエンス
 代表取締役社長 河南 雅成
 (コード番号 4584)
 問合せ先責任者 執行役員管理部長 上野 昌邦
 (TEL 011-876-9571)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成26年5月14日付「平成26年3月期 決算短信」にて公表いたしました業績予想を、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。
 なお、通期につきましては、従来の業績予想の修正は行っておりません。

記

● 業績予想の修正について

平成27年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成26年4月1日～平成26年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	155	△830	△807	△808	△339.10
今回修正予想(B)	145	△426	△400	△401	△168.30
増減額(B-A)	△9	403	407	407	
増減率(%)	△6.2	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年3月期第2四半期)	156	△186	△188	△190	△90.35

修正の理由

当第2四半期累計期間の研究開発の状況といたしましては、GBS-010(PEG-G-CSF)や伊藤忠ケミカルフロンティア(株)との共同開発品など、バイオ後続品の開発を着実に前進させることができました。加えて、開発投資リスクを低減すべく開発プロセスの精査を行い、開発の進捗に影響を与えずに支出時期の分散を図った結果、当第2四半期累計期間の研究開発費は当初予想から大幅に減少する見込みとなりました。なお、GBS-010(PEG-G-CSF)の非臨床試験に着手したことをはじめ、バイオ後続品の開発自体は順調に進捗しており、通期の開発スケジュールは概ね予定どおり進捗する見込みであります。

通期の業績予想につきましては、上記のとおり開発支出の分散と開発投資リスクの低減を図った結果、バイオ後続品の開発費は当初予想から減少する見込みとなりました。一方、新規の研究開発案件についての提携候補先との交渉状況を鑑み、複数案件に対応するための研究開発費を追加で予算計上した結果、これらの影響が相殺されることが見込まれるため、通期業績予想の修正は行っておりません。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上